

# ドイツと日本の教育制度の違いについて

三木 詩織

はじめの頃は、ドイツの北部と南部の都市に存在する色々な違いについて調べようと思っていましたが、ホームステイに関しては違いがあって当たり前ということに気づき、さらに行った季節が全く違うこともあり比較することは難しかったので、以前ドイツに行った時に教えてもらい、気になっていたドイツと日本の教育制度の違いについて調べることにしました。

まずは日本とドイツの教育概要の違いについて見てみようと思います。日本では、教育のシステムは文部科学省によって定められており義務教育期間は6歳から15歳です。年度のはじめは4月で年度終わりは3月です。また、授業は午前8時30分に始まり、午後3時に終わります。その後は宿題やクラブ活動をしたり、塾に通ったり、習い事教室に向かう傾向にあります。

日本では基本的に小学校を卒業すると中学校に入学します。一方、ドイツでは州によって教育のシステムは異なり義務教育期間は日本と同じく6歳から15歳ですが学年の呼び方が第1学年から第10学年と呼ばれ日本とは異なっています。

年度のはじめは9月であり、年度の終わりは7月です。また、授業は午前8時に始まり、午後1時に終わります。その後は宿題をしたり定期テストに備えた学習をしたりするようです。ドイツでは2科目で不十分な成績をとった生徒は、同じ学年を繰り返す必要があります。そのため、みんな一生懸命学習するのだらうと思います。

次に、義務教育期間のそれぞれの課程の違いについて見てみようと思います。日本では、小学校は6年間通うと定められており、1日に4時限から6時限の授業があり、授業は45分間です。授業の間に休み時間があります。そして小学校を卒業すると中学校に入学します。一方、ドイツでは小学校は前期課程と後期課程に分かれており、前期課程は4年間で、1日に4時限から6時限までの授業があり、授業の間に休み時間があります。そして前期課程の終わりに、各生徒の成績に応じて先生が今後の進路を指導するそうです。また後期課程では、職業に応じた一般課程を学び、第5学年から外国語(英語)が必修科目になります。課程は第9学年で修了し、卒業後の進路は、見習い修業と進学のと二つに分れます。

中学校に関しては、日本では3年間通うと定められていて、授業は1日に5時限から6時限まであります。中学校の課程は第3学年で修了し、卒業後の進路は進学または就職に分かれます。一方、ドイツでは小学校・前期課程を修了した生徒の約30%が実技中等学校に進学し、高度な資格が必要となる職業に備えた一般教養について学びます。第5学年から外国語(英語)が必修科目になり第10学年で実業中等学校が修了し、卒業後の進路はギムナジウム(高等学校)への進学、見習い修行、実業専門学校への進学の3つに分かれるそうです。

最後に、日本とドイツの教育事情の違いを調べてみて、ドイツでは10歳の頃には進

路を選ばなくてはいけないと知り大変だな  
と思いました。同時に、小さい頃から、こ  
ういった自分で決断するという力をつけて  
いれば、成長し社会に出た時に役に立つこ  
とがあるかも知れないので、小さい頃から  
こういった決断力をつけられることは良い  
ことだとも思いました。



写真はアウクスブルク大学の一部です

#### 参考文献

「ドイツと日本の教育制度の違い～保育  
園から大学までの様々な教育制度の違い  
～」

<http://www.city.kaminoyama.yamagata.jp/shomu/kokusai%20new/new%20page/kyouikuseido.htm>

(2012/09/18 アクセス)